平成30年（2018）
阿づまの光
1月号・Januaro

大本東京本部
開設50周年

教主さまお作 灰釉茶盌 銘「宝船」

【宮原山土　金字松釉】

題字 出口直日

通巻第586号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 猪子 恒

〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

しき島の道あきらけく世を照らし
教をひらく瑞霊の神

出口王仁三郎聖師

東光苑50周年の佳節を迎えて

東京宣教センター長　猪子　恒

戊戌の新年、明けましておめでとうございます。今年もいろいろな節目がやってきます。

開祖さまご昇天・伊都能売神諭発表から100年、聖師さま高熊山ご入山120年・ご昇天70年、さらには昭和3年3月3日、「みろく下生」をご宣言になりましてから満90年で、この年の春には坤の方角、奄美の喜界島・宮原山が、夏には艮の方角、北海道の芦別山が開かれています。

そうした中、東京本部が設置、東光苑と命名されて50年という佳節も迎えます。秋の祝日・体育の日10月8日、「東京大本歌祭」に催行するお許しをいただきました。早速、関東地域に住む青年有志による朗詠などの「お稽古」も始まっています。

思い起こせば10年前、この東京本部の新築を慶祝して「東京大本歌祭」が執行されました。諸事情から二部構成になりましたが、在日中東大使らの特別献詠歌が、ヘブライ語、アラビア語、英語などで朗詠され、歌祭後、イスラエル大使とパレスチナ代表は、互いに握手とハグを交わし、参拝者から歓喜の拍手が起こりました。

三代教主さまは、昭和47年年頭のごあいさつの中で「人は数によって意義づけられ左右されているのではなく、わたくしたちが神さまのお力をいただいて、数運をも意義づけさしていただくのでなければとおもいます」と、大本の進展主義、積極主義と人の精進努力の大切さをお示しくださっています。

そこで私たちは、平成17年、五代教主さまがご献詠なされた「わが願ひエスペラントの歌まつり人類同胞こぞりてエルサレムの野に」のみ歌に思いを寄せ、その実現に向けた一里塚となるよう、前回を超える歌祭にしたいと祈念しているところです。

歌祭には「献詠歌」が欠かせません。「阿づまの光」をお読みの皆さまには、必ず、ご作歌くださいまして、さらなるご支援、ご協力いただきますよう、心からお願い申し上げます。

市民のための患者学

～時代が求める新しい医療の姿へ～

医療は、今大きな転換期を迎えています。医療の中心が急性病から慢性病へ、治療（キュア）から療養（ケア）へ、医師から患者へと大きく移行しています。よりよい医療を受けるためには何ができるのか、市民の立場でできることを考えてみたいと思います。

人類史の中の定常社会

現在は、〝人類史の中の定常社会〟に突入しているといわれています。人類が誕生してから現在まで、成長する時代と定常する時代を繰り返しており、今ちょうど情報化や金融化などが生み出された資本主義社会が定常化する時代に移っているのだそうです。京都大学教授で公共政策を研究されている広井良典さんが、現代の社会を分析され、著書『ポスト資本主義～科学・人間・社会の未来～』の中に書かれています。

定常型の社会は環境や福祉、経済を統合した持続可能な福祉社会であり、現在は人類史上3番目に大きな〝成長社会から定常社会へ〟の移行期にあるのだそうです。

歴史を振り返ると、社会がある一定の成長を遂げた時期に、自然信仰とか普遍信仰、仏教やキリスト教といった、人々の心の拠り所となる精神文化が発展しています。

実際に、現在は資本主義の利己主義から他者を尊重する時代へ、経済中心、科学中心の考え方から、より精神性、スピリチュアリティを重んじる風潮へと変化が進んでいるようです。

激変する社会

ロンドン・ビジネススクール教授のリンダ・グラットンさんは、著書『ワークシフト』の中で、２０２５年に人類の職業はどのように変化しているかを分析し著されています。

近年の大きな変化として、テクノロジーの進化、グローバル化、人口構成の高齢化、社会の変化、エネルギー環境問題の深刻化などがあり、このような要素が重なりあう結果、今ある仕事の多くはなくなり形を変えていくことを予測しています。そして、未来において心豊かに生きるために、〝ワークシフト〟、働き方の視点を変えてくことを提唱しています。

例えば、昔は店まで買い物に行かなければならなかったものが、今はネットを通して注文し翌日には配達員が自宅まで配達してくれるようになりましたが、近未来には、それが自動運転で送られてくるようになるかもしれない。そうなると商店や配達という職業が無くなる可能性もあるわけです。例えば昔は電話交換士がいましたが、今はもう無くなりました。このように機械やコンピュータが進歩することにより、人手がかからない仕事がどんどん増えてきます。

予備校でも、ビデオを流して授業を進めています。１人の講師のビデオを全国の予備校の校舎で流せば、今まで数十校の校舎で授業をしていた講師が１人で済むことになります。大学の授業も、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学の有名な教授が、ＭＯＯＣという形で無料でインターネットで授業を流しています。そうすると世界の途上国にいる向学心に燃えた学生たちは無料で授業を受けることができ、地球規模で社会に貢献する優秀な人材が育つのです。

このような急速なテクノロジーの進化やグローバル化で、実際に社会が激変しつつある今、グラットン氏は、近未来〝できる〟人でなく、〝この人しかできない〟ような経験や技術を持っている人材が求められる。また金儲けと消費、忙しいだけの仕事から内容の深い価値ある経験としての仕事へ、あるいは勝つための仕事から共に生きるための仕事へと、仕事そのものが大きくシフトしていくことを予見しています。

時代が変わる大転換期

このように現在は、今まで見えなかったものが見えてきたり、社会全体として物の価値観が変わってくる、時代の大転換期を迎えているのです。

20世紀では科学の進歩は幸福をもたらすと信じられていました。しかし原爆や公害の問題、あるいは欠陥自動車など、科学の進歩を信じるだけではいけない現実が明らかになってきました。また、大量生産・大量消費により豊かな生活が実現すると考えられた時代から、手作りの商品や素材を生かした商品が好まれるようになったり、他人と違うことが認められる、多様性が求められる時代になってきています。物質中心の世の中から、美とか愛、芸術といった精神性、感受性といった心の豊かさを尊重する時代に進む大きな変わり目に差し掛かっていることを感じます。

変革を肌で感じる今、私達は自らの物の見方を大きく変えていかなければいけない。今までの常識で考えていると、目の前で見えているものが見えてこない。実はもう変わっているのに、見えていないことがいっぱいあるのかもしれないのです。

慶應大学医学部に勤務していた頃、科学の進歩の中で脳死による臓器移植は正しい医療であると信じていました。しかし、私の信仰する大本では、脳死は人の死ではないという教えから、脳死臓器移植反対運動を開始しました。医学の進歩のためという先入観を取り払って、あらためて脳死について調べたところ、〝脳

～21世紀・生きがい講座～

加藤 眞三（かとう しんぞう）（慶應義塾大学看護医療学部教授）

死は人の死ではない〟ことが、医学的にもはっきりと理解できました。大本の運動により、見直すことができたのです。

「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました」

２０１３年「新聞広告クリエーティブコンテスト」で最優秀賞をとった作品です。面白いですよね。桃太郎って英雄のように言われていますが、鬼にとっては、いきなり島にやって来てお父さんを殺した、ひどい奴ですね。そういう風に視点を変えることが、実は激動する時代にはすごく大事なことなんだと思います。

大本は明治時代から、資本主義に移行する時代の視点を正しく見据え、物質ではなく魂を大切にしないと人類は不幸になると警告してきた宗教です。利己主義、弱肉強食の世の中に警鐘を鳴らし、心を改めて地上天国を建設することを啓示されています。芸術は宗教の母であるとも説かれていますが、近未来のワークシフトの後、特に芸術の分野が重要になる時代が来るだろうと感じます。

医療者と患者の関係性の変化

霊主体従という大本の教えを、現代医療の中で考える時、科学中心ではなくスピリチュアリティというものを活かすことだととらえることができます。

私が看護学部に異動して、医療全体を眺めながら医療者と患者の関わり合いを考える時、看護師の果たすべき役割がすごく大事ではないかと感じています。

これまで、医師は患者に対してキュアを提供すること、科学技術を中心として病気を治すということを中心にしていましたが、これからの医療では、患者さんに寄り添う医療、魂をケアするという心の癒し、スピリチュアリティが重要となります。

医療者が中心の医療から、患者さんが中心の医療に転換していかなければなりません。私は医学部の学生の頃に肝炎を発症し、患者の視点を経験いたしました。医学部・看護学部でつとめる中で、医療者側からも患者側からも医療現場の環境がよく眺められる良いポジションをいただいていると感じています。

慶應義塾大学の福澤諭吉は独立自尊を大事な教えとしています。だから自立する学生が集まってくるし、その大学病院にも自立する患者さんが多く来られるのです。時代の変化に対応できる学び舎を理想としたわけです。

医療も患者さんの変化に対応して変わり続けます。現代は慢性病、生活習慣病の時代です。食事も栄養の欠乏ではなく栄養過剰による肥満が問題になっています。そして、キュアからケアへと患者のニーズが大きく変わってきています。これまでのように医者が患者を管理するという態勢から、患者さんとともに協働する関係性の医療に移行していくのだと考えています。

最近、日本でも医療現場における宗教者の必要性が再認識されています。東日本大震災をきっかけに、被災者、患者さんに対する心のケアが求められ、宗教者の連帯と役割が大事だということから生まれたのが日本臨床宗教師です。そこで私が発起人となり、それらの人と医療の現場でよりスムースに協働できるようにと「信仰を持つ医療者の連帯のための会」を立ち上げました。これから、いろいろな信仰を持つ医療者が連携し合い協力しようと模索するところです。

患者力を必要とする時代

医療や医師を身近に感じていただくために、私は東洋経済オンラインで「患者学のすゝめ」と題する記事の連載をしています。どなたでも無料で見ることができます。

患者学では〝患者に学ぶ、患者も学ぶ〟を合い言葉に、医療者は患者さんに学び、市民も患者になった時のために学ぼうというものです。

患者学で患者が学ぶこととして、①医療者との関係の持ち方、②医療情報とのつきあい方、また、③自分の生き方を見つめ直して生活に反映させることを解説していきたいと考えています。

医療者とのコミュニケーションを深めること、患者さん自らが医師や医療機関を選択したり、医師と対話しながら、また患者同士の情報も共有しながら、自ら治療の方向性を探るという、賢い患者のあり方を提唱しています。

今、患者力を必要とする時代を迎えています。自立する患者と医療者が大人と大人の関係性で対話する、新しい医療のあり方を時代が求めているからです。その医療に向かって足を一歩、進めていきましょう。新しい時代がもうそこまで来ています。新しい価値観や人生観が必要とされています。市民は、患者学で医療とのつきあい方を学ぶことによって、最終的には人類と科学とのつきあい方を学ぶことになります。そして市民と専門家の関係性を見直すことができます。時代が求める新しい医療の姿へ、未来を創造していきましょう。

掲載文は、平成29年8月16日に航空会館（港区新橋）で開催した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は12月10日、午前10時30分から斎主・高野春樹祭務課長のもと執行され、317人が参拝した。

祭員は関東教区などの青年部員、伶人は二絃の会関東支部、伊都能売神論拝読は、茨城主会の渡辺あやめ青年部員、添釜は中村社中が担当した。

祭典後、鈴木穎一本部長があいさつに立ち、教主さまのご近況を報告した後、「お道の後継者育成は、待ったなしの状態です。後世に大本の素晴らしい教えを継承していくためにも、信徒一人ひとりが一致和合し、地道に努力し、刹那最善主義で、後継者育成に取り組みましょう」と、来年度の教団方針の一番に取り上げた〝後継者育成〟の重要性を説明した。

続いて、松田行彦元大本本部長が『来年の開祖さまご昇天百年祭を迎えてお憶(おも)う』と題し記念講話。十年前の東京本部建設にまつわるご神徳談などを語り、また「この世をお創りになった元の大神さまをお讃えし、開祖さまの筆舌に尽くせぬご聖苦をお偲び申し上げる大本信徒は、自信を持って使命にお使えさせていただかねばならない」と、大本信徒としての覚悟と自覚を促された。

当日は、直心会千葉連合会によるバザー、また天声社の出張販売も行われた。

開祖さまのご聖苦を偲び、「大本信徒としての自信と自覚を」と語る松田元本部長

東光苑教本認定講習会
～み教えを正しくお伝えするために～

教本講師・講師補認定講習会

日　時：2月23日（金）午前9時30分
　　～25日（日）正午まで
会　場：東京宣教センター
対象者：教本認定講師補・1級取得者
定　員：10人（通いでの参加も可能です）
参加費：3,700円（2泊と食費分の経費）
　　※実践リーダー教本「上級編」900円を
　　お持ちでない方は別途ご購入いただきます。
持ち物：実践リーダー教本「上級編」、筆記具 等

教本各級認定講習会

日　時：2月24日（土）午前9時30分
　　～25日（日）午後3時30分まで
会　場：東京宣教センター
対象者：教本認定級未取得者（初級）
　　教本認定2・3級取得者（中級）
定　員：30人（通いでの参加も可能です）
参加費：2,200円（1泊と食費分の経費）
　　※実践リーダー教本「初級編」515円、
　　「中級編」720円をお持ちでない方は、
　　別途ご購入いただきます。
持ち物：実践リーダー教本「初級編」、「中級編」、
　　筆記具 等

申込み：東京宣教センター 愛善宣教課
　　TEL 03-3821-3701　FAX 03-3821-5283
　　Mail t-kakizaki@oomoto.or.jp
　　担当：愛善宣教課・柿崎 哲男
締　切：2月17日（土）

東光苑葬祭研修会

東光苑葬祭研修会は11月25・26の両日、東京宣教センターで開催され、14人が参加した。

研修会では、2日間にわたり、喪家の心得や関東地方の習慣に即した葬儀の執行について学ぶ「葬儀執行の流れ」、また「斎場調度品について」や「招魂式」「発葬式・火葬式・家祭式」「毎十日祭」「五十日祭・合祀祭」の実習と、実際の葬祭を想定しながら各調度品などの準備や流れ、祭典までを詳細に学び、仕上げとして実際さながらに模擬祭典形を行った。

また、初日の夜間に開かれた、「質疑応答」では、葬祭に関する内容のほか、日頃の諸祭典についての疑問点など、熱心な質問があり、研修を深めた。

21世紀・生きがい講座

第178回「21世紀・生きがい講座」は、12月20日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、春風ふくた講師（漫才師）が「ごきげんよう春風ふくたでございます～笑う門には福来たる～」と題して講話した。参加者は15人。

講師は「人が生きてゆくことはとてもシンプルなこと。良いこと悪いことを経験しながら、人と人とがお互いに魂を磨き合って成長してゆくもの」として、日本各地を巡業する中で体験した様々なエピソードを、笑いを交えて紹介した。

参加者からは「体験を通して、死生観や人としての生き方について、教えていただきました」（男性・信徒）等の声が寄せられた。

東光苑祭典・行事予定

1月

1日（祝・月）午前7時執行
新年祭・年賀交換

1日～3日（月～水）午前9時30分から
年賀

7日（日）午前10時30分～午後3時
東光苑七草粥

14日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・成人式式典

17日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　没後100年
　　大本開祖・出口なおの生涯に学ぶ
講師　猪子　恒（東京宣教センター長）

19日（金）午前10時30分執行
聖師毎年祭（70年）

2月

3日（土）午後6時30分執行
開教126年 節分大祭遥拝祭
二代教主・四代教主聖誕祭

11日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・豊年祈願祭
市杵島姫命例大祭

21日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　王仁三郎の半生と高熊山修行
　　～入山120年をしのぶ～
講師　橋本伸作（東京宣教センター次長）

23日～25日（金～日）午前9時30分
教本講師・講師補認定講習会

24日・25日（土・日）午前9時30分
教本各級認定講習会